

インクルーシブ教育システムを推進するための
地域や学校等の主体的な取組を支援します

インクル COMPASS



「インクル COMPASS」とは「インクルーシブ教育システムを推進し、主体的取組を支援するための観点」のことです。COMPASS は、英語表記である「Components for Promoting Inclusive Education System and Assisting Proactive Practices」の頭字語です。

「インクル COMPASS」は、園や学校の取組状況を7つの観点でチェックするシートと、全体の進捗状況を俯瞰するためのナビゲーションシートで構成されています。

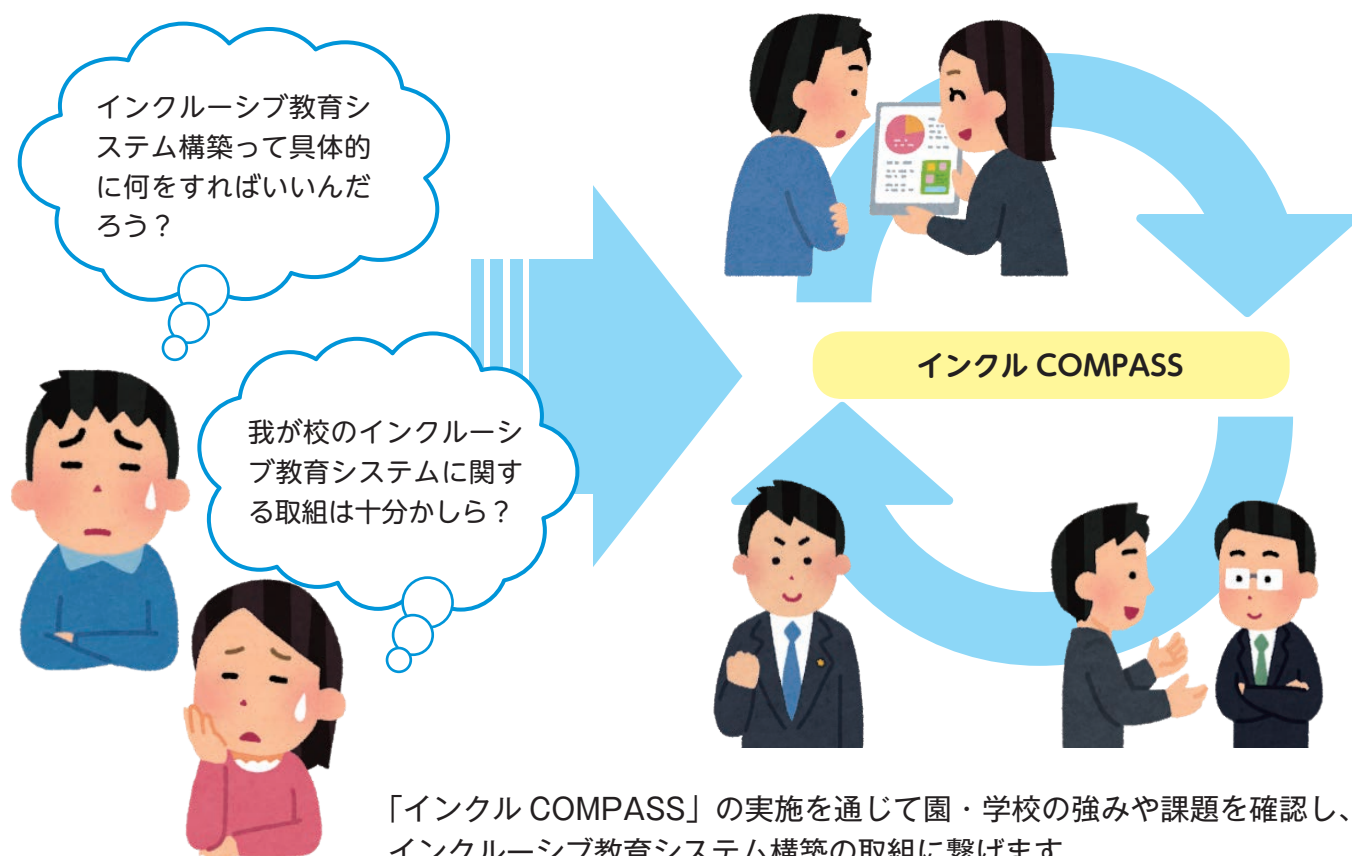
インクルーシブ教育システムとは？

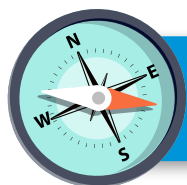
障害者の権利に関する条約第 24 条によれば、「インクルーシブ教育システム」(inclusive education system) とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が「general education system」(一般的な教育制度) から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」の提供等が必要とされています。基本的な方向性としては、障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指しています。そして、多様で柔軟な仕組みを整備するためには、小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要になります。

インクルーシブ教育システムを構築するには？

インクルーシブ教育システムを構築するためには、園や学校で取組状況を把握し、今後の見通しをもつための観点が必要になってきます。また、園や学校で行われている取組が、インクルーシブ教育システムとどのように関連付いているのかがわかりにくいという声もあります。

「インクル COMPASS」は、園や学校がインクルーシブ教育システム構築の現状や課題を把握して、次の取組を見出すための手掛かりを得ることを目的としたツールです。園や学校で取り組む際や、これまでの取組を振り返る際などに、インクルーシブ教育システムを構築するための一つの方向性を示す観点としてご活用ください。





「インクル COMPASS」って？

「インクル COMPASS」は、インクルーシブ教育システム構築の取組状況について、他の地域や園・学校と比較するためのものではありません。各取組について内省をはかり、今後の見通しをもつためのツールとして、以下のようなコンセプトを掲げています。

- (1) 園や学校のインクルーシブ教育システム構築を一層推進するために、現在の取組状況を把握し、その結果を踏まえて今後の取組を検討する際のヒントが掴めます。
- (2) 現状を振り返ることで、園や学校の強みや課題を可視化することができます。

「インクル COMPASS」では、図1に示す7つの観点の各項目について、園や学校の取組状況をチェックし、これらのチェック結果を総合的に判断して、今後の取組の方向性を検討します。「インクル COMPASS」は、各項目についてチェックを行うシートと、全体の進捗状況を俯瞰するための「ナビゲーションシート」で構成されています。

「ナビゲーションシート」(図2)は、全体の進捗状況を俯瞰して活用するためのシートです。具体的には、チェックした結果を基に全体を俯瞰しながら、インクルーシブ教育システム構築の推進に向けた重点的取組の方策案をまとめることができます。

図2 「ナビゲーションシート」

1. 体制整備

- ・園内・校内の支援に係る体制整備
- ・地域への理解・啓発 など

2. 施設・設備

- ・バリアフリー施設・設備の整備
- ・教育支援機器の整備 など

3. 教育課程

- ・特別の教育課程の編成
- ・特別の教育課程の実施・評価

4. 指導体制

- ・指導体制の整備・充実
- ・幼児児童生徒及び保護者の理解推進 など

5. 交流及び共同学習

- ・交流及び共同学習の実施のための具体的な取組
- ・障害のある人との交流と理解啓発

6. 移行支援

- ・就学支援システムづくり
- ・就労支援システムづくり

7. 研修

- ・園内・校内における研修の実施
- ・校外研修を活用した理解・専門性の向上 など

図1 「インクル COMPASS」の観点と項目

「インクル COMPASS」の活用

次のように「インクル COMPASS」を活用することで、園や学校のインクルーシブ教育システムの構築を充実させることができます。

STEP 1 園や学校の実情をチェックして取組状況を把握する

3-2 特別的教育課程の実施	
特別的教育課程の実施上の配慮	
取組の状況	
<input checked="" type="checkbox"/>	(1) 障害のある幼児児童生徒について教育課程を具体化する際は、個別の指導計画を作成し、一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にしている。
<input checked="" type="checkbox"/>	(2) 障害のある幼児児童生徒の教育課程の実施に当たっては、教育の効果を定期的に検証し、必要があれば指導の内容及び方法を改善している。
<input type="checkbox"/>	(3) 障害のある幼児児童生徒の教育課程の実施に当たっては、地域の人的・物的資源を取り入れるなど、地域の協力を得ながら実施している。
<input checked="" type="checkbox"/>	(4) 障害のある幼児児童生徒の教育課程の実施に当たっては、指導に関わる教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくっている。
<input type="checkbox"/>	(5) 通級による指導を受けている児童生徒の特別的教育課程の実施に当たっては、通級による指導の内容及び各教科等の指導の内容を関連付けて指導を行っている。 ※幼稚園は該当しない

園や学校の実情について、管理職や学年主任、特別支援教育コーディネーターなど複数名でチェックし、園や学校の実情を把握しましょう。観点や項目ごとに担当を分担したり、相談したりして作成することで、園や学校全体で取り組むことができます。

また、実施時期については、年度末に実施して取組を振り返ったり、次年度の年間計画を検討したりするなどの活用が考えられます。

STEP 2 「ナビゲーションシート」で園や学校の強みや課題を可視化し、重点的取組の方策を検討する

インクルーシブ教育システムを推進し、主体的取組を支援するための観点 インクルCOMPASS				
ナビゲーションシート				
園、小・中学校、高等学校用				
1. インクルーシブ教育システムの構築状況				
観点1 体制整備	できている	どちらかもある	できていない	資料に記述がある
(1-1) 園内・校内の支援に係る体制整備	<input type="radio"/>			
(1-2) 周囲の幼児児童生徒及び保護者の理解推進		<input type="radio"/>		
(1-3) 地域への理解・啓発			<input type="radio"/>	
(1-4) 管理職のリーダーシップに基づく園・学校経営	<input type="radio"/>			
観点2 施設・設備				
(2-1) バリアフリー施設・設備の整備	<input type="radio"/>			
(2-2) 合理的配慮の提供に関する施設・設備の整備	<input type="radio"/>			
(2-3) 教育支援機器の整備	<input type="radio"/>			
(2-4) 教室配置及び既存の教室の活用			<input type="radio"/>	
観点3 教育課程				
(3-1) 特別的教育課程の編成		<input type="radio"/>		

「ナビゲーションシート」を使って、全体の取組状況を俯瞰し、強みや課題を可視化した上で、重点的取組の方策を検討します。

重点的取組は、園や学校の実情に応じて総合的に判断します。「できている」にチェックが付いた強みを活かしたり、「できていない」にチェックが付いた課題について検討を行います。

STEP 3 インクル COMPASSの結果を共有し、取組につなげる



「インクル COMPASS」の実施結果を学校全体で共有したり、チームを組織して検討するなどして、具体的な取組につなげていきましょう。

すぐに取り組める内容もあれば、長期的に取り組むべき課題もあると思います。実情に応じて無理のない計画を立てましょう。

最後に、「インクル COMPASS」を活用して実施した取組を振り返ることで、次のさらなる取組や今後の計画に活かしていきましょう。

「インクル COMPASS」を活用して

A 小学校の事例

「インクル COMPASS」を使って検討された重点的取組
以下では、園・学校の強みを活かした取組の事例と課題

事例 1. 強みを活かした取組事例

～校内研修を活用した合理的配慮に関する取組の再確認～

STEP 1

校長、教頭、主幹教諭、特別支援教育コーディネーターなど計7名でチェック及び確認が行われました。さらに、この7名で「インクル COMPASS 検討会」を組織し、学校全体で「インクル COMPASS」に取り組みました。



チームを組織して「インクル COMPASS」を実施したことで、情報や結果が共有しやすくなり、学校全体の取組につながりやすくなります！

STEP 2

「ナビゲーションシート」を使って、チェック結果全体を俯瞰することで、学校の強みと課題を可視化しました。その結果、「校内の支援に係る体制整備」や「管理職のリーダーシップに基づく学校経営」の項目に「できている」のチェックが付けられ、当校の強みであることがわかりました。これを受けて、当校の強みをさらに伸ばしていくための重点的取組の方策案が検討されました。

インクルーシブ教育システムを推進し、主体的取組を支援するための観点
インクルCOMPASS

ナビゲーションシート

園、小・中学校、高等学校用

1. インクルーシブ教育システムの構築状況

観点1 体制整備	できている	どちらにも きいていない	できていない	該当項目に 対応している 結果がある
(1-1) 園内・校内の支援に係る体制整備	○			○
(1-2) 周囲の幼児児童生徒及び保護者の理解推進		○		
(1-3) 地域への理解・啓発		○		
(1-4) 管理職のリーダーシップに基づく園・学校経営	○			○
観点2 施設・設備				
(2-1) バリアフリー施設・設備の整備			○	
(2-2) 合理的配慮の提供に關する施設・設備の整備		○		○

実施された「ナビゲーションシート」の結果



「インクル COMPASS」の実施を通じて、学校の強みや課題に気付くことができ、実際の取組につなぐためにヒントを得られました！

STEP 3

「インクル COMPASS」の実施を受けて検討を行った結果、当校ですでに実施されている合理的配慮について職員全体でその価値を再確認することの必要性が出されました。そのために校内研修を行い、インクルーシブ教育システムに関する基本事項について確認を行うとともに、インクルーシブ教育システムに関する当校独自のチェックリストに各自がチェックを行うようにしました。こうすることによって、一人一人が具体的な行動につなげやすくなりました。また、職員それぞれが校内で既に実施している取組についても把握することができました。



校内研修は短時間で設定されましたが、既存の校内研修や会議などの中にもインクルーシブ教育システムの視点を少しずつ取り入れるなど、限られた時間の中でも着実に取組を進めていく工夫が行われていました！

取り組まれた実践事例の紹介

組の方策案に従って、実際に取組につなげていきます。
の改善を目指した取組の事例をご紹介します。

B 特別支援学校の事例

事例 2. 課題改善を目指した取組事例

～ Webサイトを利用した地域への理解・啓発～

STEP 1

校長、副校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、情報担当の複数名でチェック・確認するというプロセスで「インクル COMPASS」が実施されました。



複数の教員で協力してチェックすることも、インクルーシブ教育システムに対する共通理解を図る上で効果的です！

STEP 2

「ナビゲーションシート」を使って、学校の取組状況を俯瞰し、強みと課題を可視化しました。これを基に、校内で重点的取組の方策案が検討されました。その結果、重点的取組の方策案として、当校の課題であった「地域への理解・啓発」が挙げられました。

この項目は、「ナビゲーションシート」で「どちらとも言えない」にチェックが付けられた項目でしたが、インクルーシブ教育システムの構築に向け、特別支援学校のセンター的機能をより充実していく上で重要な点であることが確認されたのです。

インクルーシブ教育システムを推進し、主体的取組を支援するための観点
インクルCOMPASS

ナビゲーションシート

特別支援学校用

1. インクルーシブ教育システムの構築状況

観点1 体制整備	できている	どちらとも言えない	できていない	調査時に限りある課題がある
(1-1) センターの機能を発揮するための体制整備		○		
(1-2) 地域への理解・啓発		○		○
(1-3) 地域の関係機関との連携のための体制整備	○			
(1-4) 管理職のリーダーシップ	○			
観点2 施設・設備				
(2-1) 校内環境のバリアフリー化	○			

実施された「ナビゲーションシート」の結果



課題には、すぐに取り組むことのできる短期的な課題と、継続的に取り組む必要のある長期的な課題があります。課題の性質も考慮しながら重点的取組の方策案を検討してみましょう！

STEP 3

校内で検討を行い、「地域への理解・啓発」を進めるための具体的な取組として、学校の Web サイトを活用した情報発信を行うことになりました。具体的には、学校の Web サイトに新たなページを開設し、教育相談や研修支援に関する情報発信を強化しました。

また、こうした取組を振り返ることで、Web サイトのさらなる充実や、サイトを管理する教員自身の専門性向上にも波及効果が期待されます。



「インクル COMPASS」の結果を引き継いでいくことで、強みや課題に対して計画的に取り組むことができるとともに、子どもたちへの長期的な指導や支援につながります！

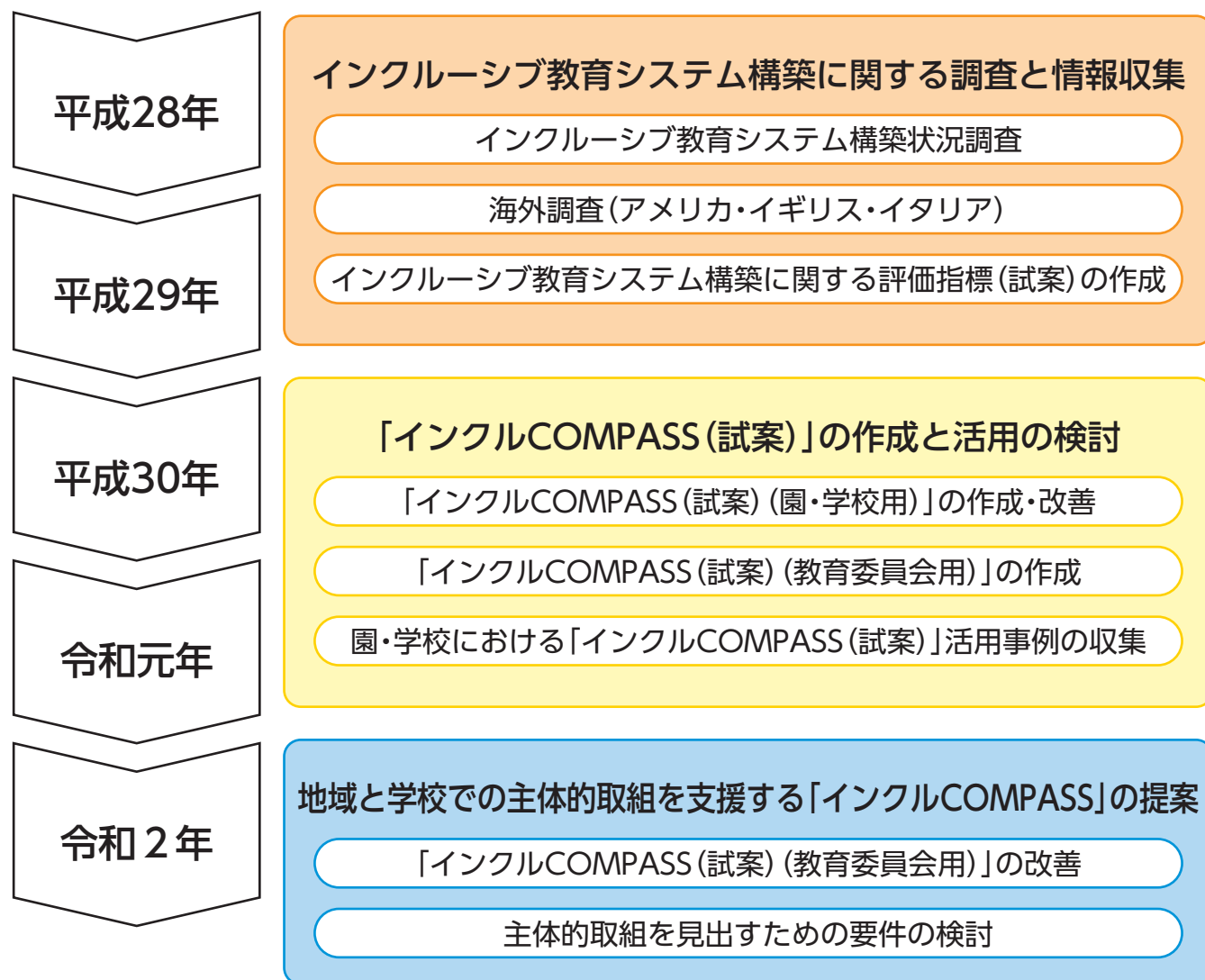
研究について

研究の概要

障害者の権利に関する条約の批准や障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が施行される中で、インクルーシブ教育システムの構築は、我が国の重要な政策課題になっています。こうした流れの中、国立特別支援教育総合研究所では、平成 28 年度から令和 2 年度にかけて、「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」を実施することにしました。

本研究の目的は、園や学校がインクルーシブ教育システム構築の現状や課題を把握して、次の取組を見出すための手掛かりを得るための観点である「インクル COMPASS」を作成することです。

5 年間の研究の流れ



本研究にご協力をいただきました都道府県教育委員会、市区町村教育委員会、園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



本リーフレットは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所で実施した基幹研究（横断的研究）「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究ーインクル COMPASS（試案）の活用を検討ー」（平成30年度～令和元年度）において作成したものです。

本研究について詳しくお知りになりたい方は、当研究所ホームページもしくは以下のURLから研究成果報告書（インクル COMPASS チェックシート、ナビゲーションシートを含む）をご覧ください。

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/specialized_research